

**2020年度後期 開講講座**  
**11月7日(土)** 13時30分~16時15分  
**ロシア十月社会主義革命 103周年記念集会**  
 会場=東京・文京区民センター3 A会議室  
 ソ連映画  
**『チャパーエフ』 上映** (監督=ワシーリエフ兄弟、1934年・ソ連)

**3月6日(土)**  
**2021年国際婦人デー東京集会**  
 ※詳細は追ってお知らせします。

## 1、レーニン『帝国主義論』を読む

正式な書名は「資本主義の最高の段階としての帝国主義」。レーニンはこの著作を、1917年の十月社会主義革命の前年春、亡命先のチューリヒで書いた。出現から100年、それは現代世界を解明する理論的基準として、いまなお生命力を保ちつづけている。本書の読解をつづじて混迷する時代状況を切り開く理論的道具を探りたい。

- 講師=山下勇男 (社会主義理論研究)
- ①**12月19日(土)** 『帝国主義論』成立史と理論的到達点
  - ②**1月16日(土)** 帝国主義の本質はどこにあるか
  - ③**2月13日(土)** 『帝国主義論』100年後の現代世界
  - ④**3月13日(土)** 日本共産党に見る転向の軌跡

## 2、コロナ禍での攻撃はねのけ、階級的な労働運動の再建を!

コロナ禍のもと、これまでに増して非正規労働者、女性、移住労働者、弱い立場の労働者・人民の生活と権利がおびやかされている。雇用労働者を企業外の個人事業主に置き換える動きも拡大している。戦闘的な労働組合に対する系統的弾圧、組合つぶし攻撃も継続している。しかし、こうした攻撃に立ち向かう運動、労働組合も厳然と存在する。その運動と思想に学び協働しつつ、労働運動の階級的再建の端緒をつくりだそう。

- ①**1月9日(土)** 移住労働者とわたしたち  
——入管法の改悪とコロナ禍のなかで  
講師=指宿昭一 (弁護士・暁法律事務所)
- ②**3月17日(水)** 雇用されない働き方のルールとセーフティネット  
——フリーランスの労働問題を考える  
講師=杉村和美 (出版ネット執行委員・編集者)
- ③**3月20日(土)** 労働運動とつながる市民運動の思想  
——関西生コン労組不当弾圧を許さない市民運動を起ち上げて  
映画『棘—ひとの痛みは己の痛み・武健一』上映  
(杉浦弘子監督・65分)  
講師=高梨晃嘉 (共同行動のためのかながわアクション代表)

## 3、20世紀社会主義の教訓と中国社会主義について考える

改革開放以後の中国の経済建設路線には様々な批判がある。第1講では、習近平指導部の「特色ある社会主義」思想の解明と米国のトランプ政権が一方的に押し進めてきた米中対立の行方について考える。第2講は、2021年の創立100周年を契機に中国共産党史からみた中国の歴史的考察。第3講は、来るソ連崩壊30年を前に、20世紀の社会主義の教訓と未来社会について構想する。

- ①**11月21日(土)** 習近平中国の「特色ある社会主義」と米中対立  
講師=浅井基文 (国際問題研究者)
- ②**1月23日(土)** 中国共産党創立100周年を前にして  
——中国共産党史からみる中国の過去・現在・未来  
講師=村田忠禧 (横浜国立大学名誉教授)
- ③**2月20日(土)** ソ連邦崩壊30年の今年、  
ふたたび社会主義について考える  
講師=岩田昌征 (千葉大学名誉教授)

## 4、侵略国家アメリカ ———— その歴史と現実

世界戦争は20世紀、「サラエボ事件」「ナチスのポーランド侵攻」として表層的に現われました。前進する労働者階級の闘争と植民地支配下の反帝独立闘争、大十月社会主義革命の勝利は資本主義的支配に新たな矛盾を作り出し、再度の大戦と核の時代を生み出しました。1945年、米国は世界最大の経済・軍勢力を獲得、しかし、その後は対外侵略戦争の連続でした。

※このシリーズは火曜日の開催です。ご注意ください。

- 講師=富山栄子 (国際交流平和フォーラム代表)
- ①**11月10日(火)** 中東・アフリカへの介入と支配  
——あくことなき資源争奪戦争
  - ②**2月16日(火)** ソ連・東欧への反革命攻撃  
——反ソ・反共イデオロギーの全世界への流布とその実践

## 5、大西巨人の批評を読む

——『戦争と性と革命』『大西巨人文選』などに所収の諸論文から

一年余にわたるHOWS連続講座「大西巨人『神聖喜劇』を読む」は終了した。参加者はさまざまなことを学んだ。本講座では、『神聖喜劇』講座で学んだことを、日本の敗戦後から1990年代後半までに書かれた大西の批評文を読むことでさらに深めていきたい。それは現在われわれが直面している問題を解く手がかりとなるだろう。

- ①**1月30日(土)** 感染症と差別  
——「ハンセン氏病問題」(1955年)などの諸論文  
報告=HOWS受講生
- ②**2月27日(土)** インターナショナリズムの復権  
——「コンプレックス脱却の当為」(1997年)  
報告=HOWS受講生

## 6、日本の短編小説を読む

日本ファシズムの激化してゆく時代、戦争に突入してゆく時代、文学者たちはどのように時代および現実と向き合ったのか。そのまなざし、その精神のうちそとを、当時を代表する四人の作家それぞれの秀作をとおして見つめなおす。(開始時間は各回とも午後6時30分)

- 講師=立野正裕 (元明治大学教員)
- ①**12月2日(水)** 中野重治「歌のわかれ」  
(『村の家/おじさんの話/歌のわかれ』講談社文芸文庫収録)
  - ②**1月27日(水)** 武田麟太郎「日本三文オペラ」  
(『日本三文オペラ—武田麟太郎作品選』講談社文芸文庫収録)
  - ③**2月24日(水)** 横光利一「春は馬車に乗って」  
(『日輪/春は馬車に乗って 他八篇』岩波文庫収録)
  - ④**3月24日(水)** 川端康成「禽獣」  
(『水晶幻想/禽獣』講談社文芸文庫収録)

## 7、パリ・コミューン150周年

2021年は「パリ・コミューン150年」。「国家」のみ語られることが多いけれど、「人民の事業」としてもとらえたい。その手がかりとしてプレヒトの戯曲『コミューンの日々』を置き、その上演批評や読み込みをして書かれた武井昭夫の「パリ・コミューンの教訓」と湯地朝雄の「『コミューンの日々』をめぐって」を読むと、歴史を覆う霧が晴れていくように思う。

- ①**3月27日(土)** B・プレヒト作『コミューンの日々』を再考する  
——武井昭夫、湯地朝雄の論考を通じて  
報告=井野茂雄 (文化活動家)

## 8、この人にきく

- ①**11月14日(土)** キューバの医療・社会保障制度と人民の政治参加  
——「キューバがコロナ抑え込みに成功——知られざる最先端の医療」(テレビ朝日) 上映と報告  
講師=キューバ大使館から
- ②**11月28日(土)** 現代日本の反動潮流  
——愛国心を振りまわす懲りない面々  
講師=安田浩一 (ノンフィクションライター)
- ③**12月5日(土)** 日米地位協定の締結60年・現場から問う  
——2020年に沖縄で起きた事件とその報道について  
講師=吉川 毅 (『沖縄タイムス』東京支社・報道部長)
- ④**12月12日(土)** 安倍政権の危険きわまる「置きみやげ」  
——「敵基地攻撃論」の急浮上  
講師=縞縞 厚 (明治大学特任教授)

HOWS講座カレンダー 2020年度後期 (11月~3月)	
①11月7日(土)	開講講座 ロシア十月社会主義革命103周年記念集会
②11月10日(火)	中東・アフリカへの介入と支配 講師 富山栄子
③11月14日(土)	キューバの医療・社会保障制度と人民の政治参加 講師 キューバ大使館から
④11月21日(土)	習近平中国の「特色ある社会主義」と米中対立 講師 浅井基文
⑤11月28日(土)	現代日本の反動潮流 講師 安田浩一
⑥12月2日(水)	中野重治「歌のわかれ」 講師 立野正裕
⑦12月5日(土)	2020年に沖縄で起きた事件とその報道について 講師 吉川 毅
⑧12月12日(土)	安倍政権の危険きわまる「置きみやげ」 講師 縞縞 厚
⑨12月19日(土)	『帝国主義論』成立史と理論的到達点 講師 山下勇男
⑩1月9日(土)	移住労働者とわたしたち 講師 指宿昭一
⑪1月16日(土)	帝国主義の本質はどこにあるか 講師 山下勇男
⑫1月23日(土)	中国共産党創立100周年を前にして 講師 村田忠禧
⑬1月27日(水)	武田麟太郎「日本三文オペラ」 講師 立野正裕
⑭1月30日(土)	大西巨人の批評を読む：感染症と差別——「ハンセン氏病問題」(1955年)などの諸論文 報告 HOWS 受講生
⑮2月13日(土)	『帝国主義論』から100年後の現代世界 講師 山下勇男
⑯2月16日(火)	ソ連・東欧への反革命攻撃 講師 富山栄子
⑰2月20日(土)	ソ連邦崩壊30年の今年、ふたたび社会主義について考える 講師 岩田昌征
⑱2月24日(水)	横光利一「春は馬車に乗って」 講師 立野正裕
⑲2月27日(土)	大西巨人の批評を読む：インターナショナリズムの復権——「コンプレックス脱却の当為」(1997年) 報告 HOWS 受講生
⑳3月6日(土)	国際婦人デー東京集会
㉑3月13日(土)	日本共産党に見る転向の軌跡 講師 山下勇男
㉒3月17日(水)	雇用されない働き方のルールとセーフティネット 講師 杉村和美
㉓3月20日(土)	労働運動とつながる市民運動の思想 (映画『棘』上映) 講師 高梨晃嘉
㉔3月24日(水)	川端康成「禽獣」 講師 立野正裕
㉕3月27日(土)	B・プレヒト作『コミューンの日々』を再考する 講師 井野茂雄

◀2020年度後期募集要項▶

- 定員 本科生40名
- ・全講座25回(各週1~2回程度)
- ・本科生は、すべての講座を受講できます。

◎聴講生20名  
シリーズを問わず、自由に講座が選べる8枚綴りの聴講チケットがあります。

- 費用
- ◎本科生 入学金…1万円(次期以降は不要)  
受講料…前期：25,000円、後期：25,000円  
・前期5月、後期11月の開講時までそれぞれ納入してください。
- ◎聴講生 聴講料 回数券…10,000円  
・聴講料納入と引き換えに8枚綴りの聴講チケットをお渡しします。  
・1回の受講料は本科より割高ですが、一般受講より割安になります。  
・聴講チケットは、期間内のみ使用できます。
- ◎一般 受講料…1,500円(各講座1回につき)  
・本科生・聴講生以外の一般参加は、受付で現金にていただきます。
- 申込方法  
・所定の申込用紙に必要事項を記入のうえ、入学金・受講料を添えて、直接事務局に持参、または現金書留にて郵送してください。郵便振替ご利用の際は、申込用紙を別途郵送または事務局にお持ちください。
- 注意事項  
・HOWSゼミナールについては、会計が異なります。  
・講師の急病等やむを得ない事情により、日程・テーマ・講師等が変更になる場合があります。

◎HOWS付属ゼミナール  
HOWS本科生と聴講生は、有志参加による下記ゼミナールに参加できます。参加費は各ゼミ毎に別途お支払いください。

①HOWS文学ゼミ(戦後文学ゼミを改称)  
チューター=山口直孝、松岡慶一

2000年から2016年まで主に戦後の文学・芸術運動を検証する作業を続けてきましたが、これを第1期として、2018年からは第2期、名称もHOWS文学ゼミで再出発しています。第1期の作業を継承するのみならず、いかにして現在の荒廃した支配的文化状況を変革して、文学・芸術運動を再生していくかが課題です。

**お知らせ** 2020年後期HOWS講座は新型コロナウイルス感染拡大のため、本リーフレットでお知らせした講座の予定が変更になる場合があります。今期は定員20名の事前予約制として実施します。予定変更の際はお知らせします。